

やっぱり！なるほど！ESD！行動の変容を目指して
四国の未来をともに創る 地域ベースの取り組みから始まるESD

四国 ESD フォーラム 2022

(日本ESD学会 第3回 四国地方研究会)

参加費無料
オンライン
参加 OK!



ESD (Education for Sustainable Development: 持続可能な開発のための教育) は、SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) 達成において重要な役割を果たします。

四国地域における ESD 実践事例の紹介、意見交換などを通して、これからの四国の ESD や持続可能な地域づくりについて一緒に考えます。

オンライン参加もできますので、ぜひこの機会にご参加ください。

3月6日 日
13:00~17:30

A. オンライン参加

Zoom

B. 会場参加

愛媛大学教育学部 大講義室

(愛媛県松山市文京町3番)

※分科会については各教室に分かれます

①ESD・SDGsに関する自由研究発表(102教室)

②四国 ESD バーチャル大学事例報告(103教室)

③ユース事例発表・交流(大講義室)

定員200名(会場/Zoom 各100名)

基調講演

「ガチ ESD に必要なコンテンツとコンピテンシー」

石丸 哲史 氏(福岡教育大学教授・日本 ESD 学会理事)

琉球大学助手、助教授を経て平成15年より福岡教育大学教授、現在に至る。この間、附属久留米小学校校長、附属学校部長を兼任。九州地方ESD活動支援センター企画運営委員長、全国ユース環境活動発表大会九州大会審査委員長、北九州 SDGs 未来都市アワード審査委員長などを務める。専門は地理学・地理教育。



分科会

身近なテーマで新たな発見!

1 ESD・SDGsに関する自由研究発表

学びあいから始まる社会変容

2 「四国 ESD バーチャル大学」事例報告

四国の高校生の活動がわかる!

3 ユース事例発表・交流

※分科会詳細については裏面をご覧ください。

問合せ・申込み

申込締切 3月4日(金) 17:00まで

参加ご希望の方は以下申込フォームよりお申込みください。

<https://forms.gle/rQn4i9tndBfYEMch7>

*開催日までに Zoom のリンク先をご連絡いたします。

*3月4日(金)中にリンク先が届かなかった場合は恐れ入りますがメールでお問合せください。

◆四国地方 ESD 活動支援センター(四国 ESD センター)

TEL:087-823-7181

FAX:087-823-5675

メール:info@shikoku-esdcenter.jp

※新型コロナウイルスの影響によりオンラインのみの開催となる場合がございます。ご了承ください。

※国の緊急事態宣言または自治体から緊急事態宣言に準じた発令が発出されている地域にお住まいの方は、オンラインでの参加をお願いいたします。



QRコードはこちら!



主催 ● 四国地方 ESD 活動支援センター(四国 ESD センター)、環境省中国四国地方環境事務所
四国事務所、日本 ESD 学会、愛大・ESD ラボ、愛媛大学教職大学院

協力 ● 四国環境パートナーシップオフィス(四国 EPO)

後援 ● 徳島県教育委員会、香川県教育委員会、愛媛県教育委員会、高知県教育委員会、特定
非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議(ESD-J)、愛媛大学教育学部社会
連携推進機構/SDGs 推進室、ESD 活動支援センター



12:30 受付開始(大講義室)
13:00 開 場
13:00 開会挨拶 近森 憲助(四国 ESD センター長)

13:10 基調講演 「ガチ ESD に必要なコンテンツとコンピテンシー」
石丸 哲史(福岡教育大学教授・日本 ESD 学会理事)

14:10 休 憩・移 動
14:30 ◆分科会

展示コーナー(大講義室前)

- ESD・SDGs 関連教材・図書
の展示・販売
- 高校生取組紹介展示
- 地域 ESD 拠点紹介

ぜひご覧ください!



分科会

1 ESD・SDGs に関する自由研究発表

四国・愛媛で ESD に取り組んでいる方々が自分たちの取組や実践を発信する場として設けています。今回は、学校教員を中心に4名の方にご自身が取り組まれている研究や授業について発表していただきます。小中高の実践事例を知りたい方、学びの中にどのように ESD・SDGs を取り込んでいけばよいか、その方法を知りたい方同士、一緒に学び合しましょう。



分科会

2 「四国 ESD バーチャル大学」事例報告

今年度よりスタートした「四国 ESD バーチャル大学」。どこにいても気軽に ESD に触れていただけるよう、オンラインで学びの場を提供し、これまで7回にわたって勉強会を行いました。年齢も立場も異なるさまざまな人が一緒に学びを深め、自由に意見交換をする中で、「持続可能な」地域づくりに必要なことや、社会変容のための新しいアイデアも生まれてきました。この分科会ではこれまでの事例を紹介し、学びを通じた社会変容、地域の未来について共に考えます。

分科会

3 ユース事例発表・交流

徳島県立吉野川高等学校

本校は、県内唯一の農業科と商業科の併置校であり、両科の特色を最大限に生かすとともに、全科目でエシカル消費教育を展開し、全校生徒と教職員が一丸となって取り組んでいます。農産物販売所「アグリ吉野川」や「スクールカフェ吉野川」の活動を主に、年度毎に新たな内容を取り入れ関係諸機関や地域との連携を強化した取組も少なくありません。また、各種活動内容を、学校のホームページや報道機関をとおして広く紹介するなど推進・啓発しています。

愛媛大学附属高等学校

ノートパソコン必携化1年目を迎えた今年度、本校は、名鉄観光が提供するオープンエアー型スマホ端末教材「マチ探」に関する活動を行いました。道後～市内中心部に位置する観光スポットを、SDGs の観点より調査しクイズ制作を行うことで、地域の伝統文化・産業・歴史について理解を深めることができました。その実践活動報告を行います。最後に、アメリカとのオンライン交流の様子や SDGs に関するその他活動の紹介もします。

香川県立小豆島中央高等学校

私たちは、今年度から、里山での水生生物や植物の調査がおこなわれています。里山には、棚田やため池、河川などの良好な水辺環境が見られます。しかし、近年、開発や外来生物の侵入などにより、里山環境への悪影響が懸念されています。今年度は、里山の河川にどのような生物が生息しているかを調査しました。その結果、在来種が多く生息していたものの、特定外来生物も確認できました。今後は、開発が里山環境に与える影響を調査したいと思います。

愛媛県立宇和島南中等教育学校

採算の取れない地方鉄道は全国的に見ても廃線の傾向にあるが、高齢化・過疎化・少子化の進む地方にとって公共交通機関の廃止は地域存続の危機となります。私たちは先輩の先行研究を引き継ぎ、そのような路線の一つ「予土線」の存続を目指す研究を行う中、地方路線の廃止を防ぐには、沿線の魅力を探り、発信していくことが重要だと考え、関係団体と協力して予土線ガイドを行いました。この研究活動を踏まえ、未来につなげる地方鉄道存続への方策を提言します。

高知県立室戸高等学校

高知県室戸市はその全域がユネスコ世界ジオパークです。その魅力を伝えるガイドの皆さんが抱える課題に、「バリアフリーガイドの実施」があります。私たちは選択科目の「ジオパーク学」受講者ですが、今回、室戸ジオパーク推進協議会など関連団体・施設への聞き取り調査も行いながら福祉系列の生徒と一緒に、障害があっても楽しめる室戸岬でのガイドコースを作成し、模擬ガイドを行いました。あらゆる人に室戸の自然や食の素晴らしさを伝えるための活動を紹介します。

16:20 休 憩・移 動
16:40 全体共有 司会進行：竹下 浩子(愛媛大学教育学部准教授)(大講義室)
17:10 総 評 石丸 哲史(福岡教育大学教授・日本 ESD 学会員)
17:20 閉会挨拶 常富 豊(環境省中国四国地方環境事務所四国事務所長)
17:25 お知らせ・アンケート記入
17:30 終 了



ESD は SDGs 達成にとっても重要な役割を果たします

ESD は、Education for Sustainable Development の略で「持続可能な開発のための教育」と訳されています。

現在、世界には、環境・貧困・人権・平和・開発といった様々な地球規模の課題があります。

ESD とは、地球に存在する人間を含めた命ある生物が、遠い未来までその営みを続けていくために、これらの課題を自らの問題として捉え、一人ひとりが自分にできることを考え、実践していくこと(think globally, act locally)を身につけ、課題解決につながる価値観や行動を生み出し、持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。つまり、ESD は持続可能な社会づくりの担い手を育む教育です。